

講義名	日本語C (書く)			授業形態	
担当教員	福岡 寿美子	開講期・曜日・時限	前期 木曜日 2時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

留学生がアカデミック・ライティングについて学ぶ。
 留学生がピア・ラーニング (Peer Learning) を行うことによって、相互リソース化 (自分も相手もお互いに貢献できる互恵的存在である)、批判的思考の獲得 (対話から「問い」が生まれるプロセスを重視する)、社会的関係の構築 (背景の異なる多様な「他者」と向きあい、認めあう態度を身につける) ができる。

到達目標

留学生が「大学での学び」のための日本語のライティングとコミュニケーションができるようになることを到達目標とする。
 留学生がピア・レスポンスを行うことによって、より良い文章が作成できるようになることを到達目標とする。
 留学生がアカデミック・ライティングを通して、考える学習を行うようになることを到達目標とする。
 到達目標については、課題の提出、中間試験、期末試験等において、その到達度を測る。

提出課題

ワークシート、課題作文、ルーブリック等、授業中にその都度指示する。

課題 (レポートや小テスト等) に対するフィードバックの方法

各学生が提出した課題 (ワークシート、作文、ルーブリック等) について、一人一人にチェックおよびコメントを行い、次の授業において、各々に返却をし、全体としての講評・解説等も行い、フィードバックをする。

評価の基準

期末試験 (30%)、中間試験 (10%)、課題の提出 (30%)、授業参加度 (30%) 等による総合評価を行う。

履修にあたっての注意・助言他

出欠は毎回とる。
 全授業回数の1/3以上欠席した場合は、試験を受けることができない。
 連続3回で1回欠席とする。
 ピア・レスポンスを行う。
 真面目かつ積極的な授業参加を望む。

教科書

.使用しない。

参考図書

.改訂版大学・大学院留学生の日本語 作文編。	アカデミック・ジャパニーズ研究会	アルク	1,600	9784757426320

その他

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション・プレゼンテーションとライティング』大島淳生、大場理恵子、岩田夏穂、池田玲子著 ひつじ書房
 『大学で学ぶための日本語ライティング 短文からレポート作成まで』佐々木瑞枝、編井和代、編尾書代子著 ジャパンタイムス
 『改訂版留学生のための論理的な文章の書き方』二通信子、佐藤不二子著 スリーエーネットワーク

授業計画

1. イントロダクション: 授業の進め方および注意事項、スケジュール、教材、評価方法、自己紹介作文、他
2. 作文学習のためのアンケート、ピア活動の意義について、他
3. テーマ1について、他
4. テーマ1についてディスカッション、他
5. 文章作成、他
6. ピア・レスポンス、他
7. 文章作成、他
8. 中間理解度試験の実施およびその解説、他
9. テーマ2について、他
10. テーマ2についてディスカッション、他
11. 文章作成、他
12. ピア・レスポンス、他
13. 文章作成、他
14. ルーブリック作成、フィードバック、他
15. 総復習および期末試験について、課題提出、他

授業形態 (アクティブ・ラーニング)

ア: PBL (課題解決型学習)	イ: 反転授業 (知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ: ディスカッション、ディベート	エ: グループワーク
オ: プレゼンテーション	カ: 実習、フィールドワーク
キ: その他 (A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習 (予習・復習等) の具体的な内容及びそれに必要な時間

各プリントに関して、語句の読みや意味を調べ、内容確認等の予習を、毎回2時間行ってください。
 ピア・レスポンスに関する復習および課題を、毎回2時間行ってください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

必要な日本語作文能力を身につけ、活用することができる。
 ピア・ラーニング、ピア・レスポンスを通して、仲間と協働して、物事を成し遂げることができ、他者との意見の違いや立場・考え方の違いを理解し、協力して物事を進めることができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考